

編集後記

▼平成十五年四月三十日に遷化された日蓮宗現代宗教研究所（現宗研）元所長中濃教篤師の蔵書・資料などが、

法嗣中濃教純師から現宗研に寄贈されました。膨大な数量で、整理の都合もあり、本号では約半分の蔵書・資料名を記載し、次号で残り半分の蔵書・資料名を記載します。資料の中には、宗教関係の他、政治・社会などの活動生資料が含まれていますが、未整理の状態で袋詰めしてあります。書簡も含まれており、日蓮宗に限らず、戦後史の資料として活用が見込まれます。研究目的での閲覧などに応じますので、現宗研にご一報下さい。

▼長谷川眞理子氏講演録は、斬新な切り口からの分析です。川崎泰資氏講演録は、長年創価学会に関する見解を披瀝されてきた延長線上の所論で、傾聴すべきものです。

▼庵谷行亨師論文は、布教現場の教師にすぐ役立つことを求める大阪府三島宗務所脇田寿久所長の願いで昨年から開催している教化学研究集会の第二回目講演の内容です。（なお、平成十六年度は、秋田県宗務所でも、教師

研修会を兼ねた教化学研究集会が開かれています——現宗研主任伊藤立教師講演「新宗教および新・新宗教の実態と日蓮宗の対策」。）

▼研究ノートは、研究員五師・囑託二師・主任原稿です。教学の現代化に関わる教化学の確立を目指す現宗研として、様々な方向からの取り組みを研究します。

▼ミニ講演は、調査研究分担のうちの現代社会プロジェクトチームが取り組む新宗教調査研究の参考に、日蓮正宗系団体に造詣の深い四氏を招いて、毎回約二時間の講演・質疑応答をおこなった記録です。

▼調査研究プロジェクト報告は、①現代と教学プロジェクトチーム②教団・教化プロジェクトチーム③現代社会プロジェクトチームのうち、報告があがったテーマについて収録しました。

▼調査報告は、現地調査をふまえての報告です。

▼寄稿は、近畿教区教化研究会議での発表を有本智心師が、女性教師の荒行推進の持論を草野弘有師が、それぞれ寄せられました。

▼中央教化研究会議報告は、本年度中央教研の報告で

す。

▼研究資料は、冒頭に記した通りの故中濃教篤師所蔵書籍・資料「中濃教篤文庫」のご紹介です。「石川教張コーナー」は、中濃教篤師より丸一年前の平成十四年四月二十四日急逝の現宗研元所長石川教張師著書を、令夫人石川千代氏から寄贈していただき、現宗研事務所内に一角を設けて、手軽に閲覧できるようにしたものです。

▼その他、現宗研に関する平成十六年度を収録しました。

▼平成十六年は、異常な猛暑、十台風の上陸（史上最多）、新潟県中越地震、スマトラ沖地震津波、豪雪など、自然の脅威にさらされました。「立正安国論」当時になぞらえて宗教的不安をあおる新宗教団体があります。日蓮聖人は、人身の乱れの奥に、下種即脱の果報を見抜き、防非止悪の大慈悲から、折伏布教を実践されました。以来七百五十年、正法に似て非なる団体も含めれば、お題目は相当に広まっています。反社会性や反仏教性という問題がない限り、日蓮系教団が小異を捨てて大同団結すべきではないでしょうか。そのためにも、日蓮

宗が中核となる自覚と見識を持ち、率先して広宣流布にあたるべきで、あらゆる工夫を凝らした教化学の確立が急がれます。この研究紀要『現代宗教研究』第三十九号が、四海帰妙に寄与することを願って、故中濃教篤・石川教張両所長の現宗研への思いを添えて、世に送り出します。合掌

（主任伊藤立教記）